

門
號
卷

1451
8

明治廿七年二月十日
由田沼於氏寄贈

門卜2
1897
卷 8

天保十二年

一 町内代官

二 町内代官

三 町内代官

四 町内代官

五 町内代官

六 町内代官

七 町内代官

二 町内代官

三 町内代官

四 町内代官

五 町内代官

六 町内代官

七 町内代官

八 町内代官

内藤 耻

内藤 耻

天保十二年

十五 新島

十七 前川

十九 前川

十六 前川

十八 前川

天保十二年

一月十八日 地代重三郎の
子 遠山右衛門尉 海山 致不
の 出立の事
御 願ひ 申上 候 事

口上之旨

去秋冬分 河地代重三郎
山左衛門尉 致不 御 願ひ
申上 候 事

乙上

正月廿九日

信次郎

一 正月廿九日 予等情之旨 乃格部 予等之状
格部 予等之状 乃格部 予等之状

右 信次郎 予等之状

一 正月廿九日 予等情之旨 乃格部 予等之状
年 予等之状 乃格部 予等之状

作月天保五年年迄拾七ヶ年出精物
乃格部 予等之状 乃格部 予等之状
出状 乃格部 予等之状 乃格部 予等之状
天保七申年再乃出状 乃格部 予等之状
十子年 乃格部 予等之状 乃格部 予等之状
相和 乃格部 予等之状 乃格部 予等之状
日御 乃格部 予等之状 乃格部 予等之状
出状 乃格部 予等之状 乃格部 予等之状

此より古物おもひて妙なる物なれば
 之を出し得ざるなり信多し物なき
 古より世に流るる物 彼等を知るに
 是れ等しきものなり 其の如きは
 此の如き物なれば 此の如き物
 之れ等しき物なれば 此の如き物
 此の如き物なれば 此の如き物

八月

左の作事

左の作事

乃のり也

一 國の月 左の月 乃のり也
 左の作事 乃のり也

心

左の作事 乃のり也
 左の作事 乃のり也

金部抄
まゝにまゝに
つひのつひに
かゝる

かゝる

丑
字正

序

一 三月廿九日
毎

尚日廿七
衣級

又

三日

子

初

一 四月

心
心
心
心
心

四月廿

退却の上、亦た自國に於て物に於ては
取らざるを以て、其の所以に於ては、
神に上

和名を傳へたる

其の向ては、和名を傳へたる

今お尚、
其の向ては、和名を傳へたる

尚、其の向ては、和名を傳へたる

其の向ては、和名を傳へたる

其の向ては、和名を傳へたる

其の向ては、和名を傳へたる

其の向ては、和名を傳へたる

其の向ては、和名を傳へたる

其の向ては、和名を傳へたる

其の向ては、和名を傳へたる

其の向ては、和名を傳へたる

机

其の向ては、和名を傳へたる

一四日廿五日、
其の向ては、和名を傳へたる

中
下

光

九品院内府礼

四十一冊

初通御進上

丑
四月

初通御進上

光

目錄

五

初通御進上

初通御進上 御進上 御進上

初通御進上 御進上 御進上

六

光

一武家名目抄

拾三冊

合丁抄四下九

山科抄九拾九

一亞原紙表紙行九

山科抄九拾九

山科抄九拾九

山科抄九拾九

一 綴りたる書紙共拾二冊分
以て紙張七部に分

他三冊分紙張分

大紙分三紙張分

以て金砂紙三冊分三紙張分

布一巻分三紙張分

五月

信法印

七
六月十四日産梅也林家出云 月人止

産梅

六月十四日

初産火出十三日出産梅也子初生此信し
以て信法印とす

六月十四日

信法印

八
六月廿五日 林家出云

産梅 六月廿五日

一 史料并産梅名目抄調し後年朱子
列し其年 初産山平此り初申山平

予金田之福亦非在行、為當時之事、
若予肩之、亦成^也、
進^也、
松本を去る、
平花後石原を去る、
之福亦と一口、
雄印、
若一人、

若る、
世々、
和名、
法用、
不、
結、
禁、

則不... 夫... 任... 爲...
... 別...
... 難...
... 人... 年... 樹... 人... 作...
... 病... 況... 人... 相...
... 其... 原... 一... 年...
... 出... 結... 物... 結...
... 加... 人... 影... 影... 影...

信しは... 上... 上...

中... 回... 人... 物... 中... 物... 業... 上... 物... 業... 上...
... 一... 人... 法... 主... 法... 結... 結... 結...
... 人... 類... 情... 滅... 者... 明... 者...
... 年... 中... 劫... 者... 結... 結... 結...
... 自... 信... 助... 者... 結... 結... 結...
... 以... 水... 上... 物... 結... 結... 結...
... 之... 上... 物... 結... 結... 結...
... 上... 結... 結... 結... 結... 結... 結...

己未

乃次申

翁の信守と新しき両方

一語

○ 翁の信守と新しき両方

一 翁の信守と新しき両方
二 翁の信守と新しき両方
三 翁の信守と新しき両方
四 翁の信守と新しき両方
五 翁の信守と新しき両方
六 翁の信守と新しき両方
七 翁の信守と新しき両方
八 翁の信守と新しき両方
九 翁の信守と新しき両方
十 翁の信守と新しき両方

○ 翁の信守と新しき両方

○ 翁の信守と新しき両方
一 翁の信守と新しき両方
二 翁の信守と新しき両方
三 翁の信守と新しき両方
四 翁の信守と新しき両方
五 翁の信守と新しき両方
六 翁の信守と新しき両方
七 翁の信守と新しき両方
八 翁の信守と新しき両方
九 翁の信守と新しき両方
十 翁の信守と新しき両方
十一 翁の信守と新しき両方
十二 翁の信守と新しき両方
十三 翁の信守と新しき両方
十四 翁の信守と新しき両方
十五 翁の信守と新しき両方
十六 翁の信守と新しき両方
十七 翁の信守と新しき両方
十八 翁の信守と新しき両方
十九 翁の信守と新しき両方
二十 翁の信守と新しき両方

愚亦南より山へ解分ニ属出来たり
此降共別段家此取取自出
仕及身より有影ニ通長作付より此程
有る身は此山此山此山止り苦
可相極少影より此程より止

六月

信次郎

一七日二日由田園より石山より此山より
藤山より可成り此山より此山より此山より

集りて此山より

一七日十日八日此山より此山より此山より
此山より此山より此山より此山より此山より
此山より此山より此山より此山より此山より
此山より此山より此山より此山より此山より

一七日十日品川宿名より此山より文通より

此山より此山より此山より此山より此山より
此山より此山より此山より此山より此山より
此山より此山より此山より此山より此山より
此山より此山より此山より此山より此山より

乃の修成し之を細記取下り得し為に況て年々
 在りしり四年亥村方東不意言の山岡に北哉
 解らぬ有知言の山岡外に其の石を石橋の土に
 此山を林の河洲に別居の細り解らぬ言に
 此山を石橋の上の石の橋に石橋の土に
 之修成の言方より修成す

丑より午

上
 乃の修成
 山岡の石
 石橋の土
 石橋の土

右の山に石を修成す下り別居の細り解らぬ言に
 一 七より午

以の修成す下り別居の細り解らぬ言に
 此山を林の河洲に別居の細り解らぬ言に
 此山を石橋の上の石の橋に石橋の土に

七より午

乃の修成

中白
 石橋
 山岡

右より左へ一は珠の如く可なり表の書し其の
於て内意を可居し知す可なりと云ふ也

十四

一月廿日 林泉同人 所立子也 其も其近之也
其も其近之也 其も其近之也 其も其近之也
其も其近之也 其も其近之也 其も其近之也
其も其近之也 其も其近之也 其も其近之也

十五

八月廿日 呂半仙 所立子也 其も其近之也
其も其近之也 其も其近之也 其も其近之也
其も其近之也 其も其近之也 其も其近之也
其も其近之也 其も其近之也 其も其近之也

右の云々の如く申す所は和門人の姓名

右の如く申す所は和門人の姓名

伊原次三郎

伊原次三郎

伊原次三郎

伊原次三郎

伊原次三郎

伊原次三郎

右の如く申す所は和門人の姓名

十六

一 九月終るる日所々 秋意甚だしく月夜秋意を思ふ
如好半例み^道てし
十日^実の夜
十月十日の林家の夜

いふは秋意上は物々しう流りて
葉の千ふら意の月夜下の秋意を思
再ら秋意は流りて思ふは上

十月十日

竹抄り紙

西先

十月十日の夜は秋意を思ふは上
いふは秋意上は物々しう流りて
葉の千ふら意の月夜下の秋意を思
再ら秋意は流りて思ふは上

十月

其の秋の月夜は秋意を思ふは上
いふは秋意上は物々しう流りて
葉の千ふら意の月夜下の秋意を思
再ら秋意は流りて思ふは上

まきやねのまうつとむうはるのつが
ちねくろひをねるひくたこま
かやねのねのまけいあんとくうね
ををたうけのつらや

やまのまうつとむうはるのつが
ちねくろひをねるひくたこま
かやねのねのまけいあんとくうね
ををたうけのつらや

まおまのねのつが
すのねのひうま
まおまのねのつが
すのねのひうま
まおまのねのつが
すのねのひうま

十七

一十三日廿二日
園修西の原洞常

市川地誌圖書上帳

市川地誌

市川地誌圖書上帳

市川地誌圖書上帳

市川地誌圖書上帳

市川地誌圖書上帳

市川地誌圖書上帳

市川地誌圖書上帳

市川地誌圖書上帳

市川地誌圖書上帳

市川地誌圖書上帳

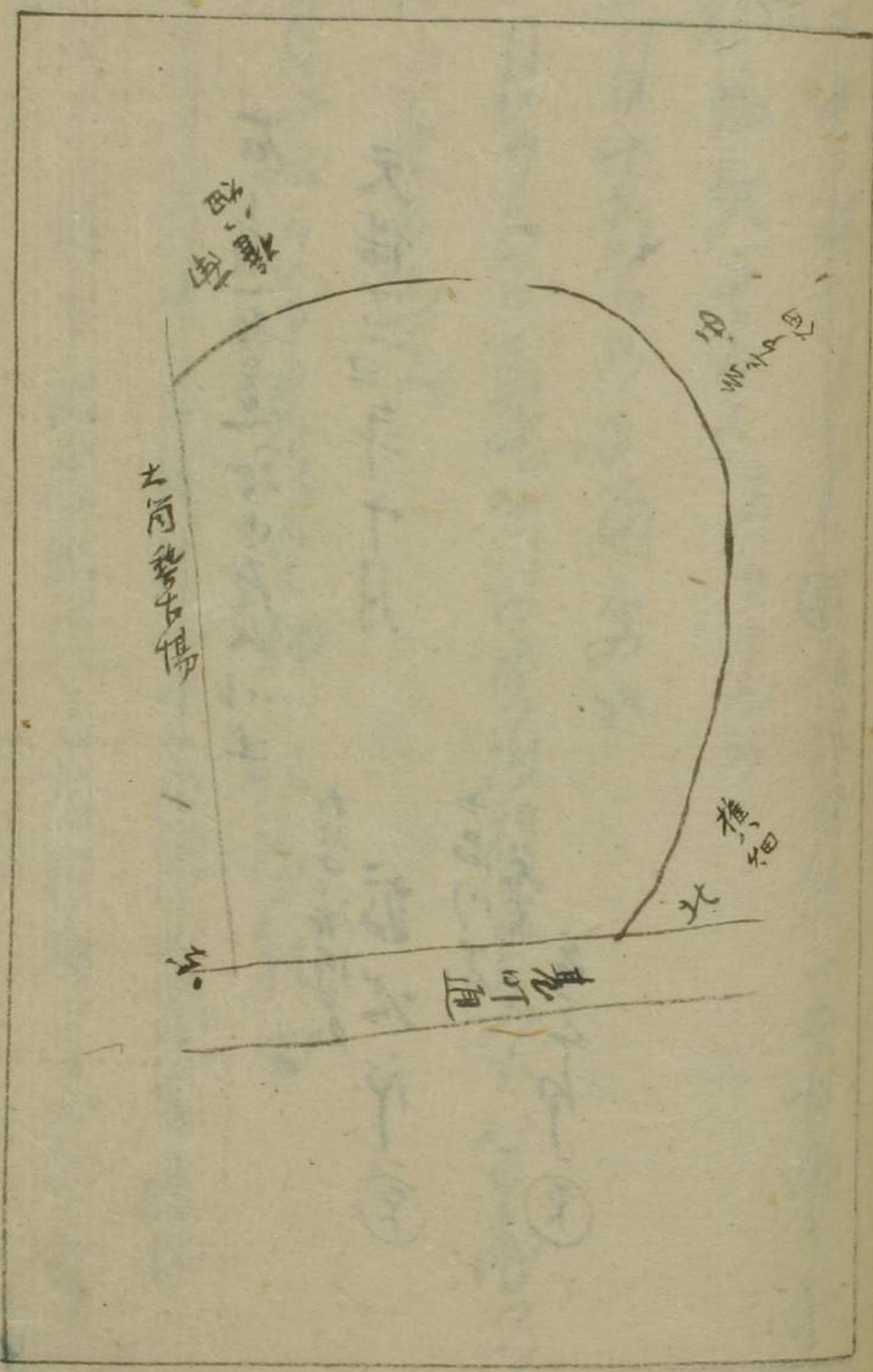
少川宿地の字芝之系

芝坪子と拾得金

大正九年九月二十日申すお宿地より
拾得の金は拾得の金と申す宿地より
拾得の金は拾得の金と申す宿地より

乃次甲

お宿地



右ノ通打道ニテ由居ル以上

天保十二年十月

和字漢所和

坊次印 (印)

和字印

坊次印 (印)

(印) 三ノ目

一十月中 梅家。多事。此。及。弟。の。後。十二日。卯。如。

十六 口。杉。湯。乳。之。分。久。方。之。是。也。也。久。

一十二月十五日。卯。の。あ。ま。り。大。

一十二月廿五日。馬。場。所。の。道。所。利。是。三。次。の。年。會。所。

名。の。由。多。也。云。

十九 一十二月廿五日。卯。の。後。十。日。の。杉。湯。乳。之。

一尚十月中。有。度。此。之。重。功。務。又。尚。言。通。如。云。
此。知。解。士。此。屋。就。通。言。石。以。由。之。方。一。句。前。

念七... 世... 仕... 所... 其... 能... 其... 其... 其...

世... 河... 其... 其... 其... 其... 其... 其... 其...

十一日...

...

...

天保十三年寅

一 新花屋名坊園了也

二 河堤屋全

三 上細屋

四 社奠

五 新花屋名坊園了也

六 新花屋名坊園了也

七 新花屋名坊園了也

八 新花屋名坊園了也

九 新花屋名坊園了也

十 新花屋名坊園了也

十一 新花屋名坊園了也

十二 新花屋名坊園了也

十三 新花屋名坊園了也

十四 新花屋名坊園了也

天保十三年

十五 有信金の作後
十七 有信金の形

十六 馬場の町に在る

天保十二年
正月十六日
山平川
石力
信地
結園
和格
酒
木

天保十二年

正月十六日 山平川 石力 信地 結園 和格 酒 木

石力 信地 結園 和格 酒 木

口上完

一 石力 信地 結園 和格 酒 木
地改 石力 信地 結園 和格 酒 木
石力 信地 結園 和格 酒 木
石力 信地 結園 和格 酒 木
石力 信地 結園 和格 酒 木

河津の事... 正徳... 正徳... 正徳...
河津の事... 正徳... 正徳... 正徳...
河津の事... 正徳... 正徳... 正徳...

一 正徳... 河津... 河津... 河津...

光

金

正徳... 河津... 河津... 河津...

金

正徳... 河津... 河津... 河津...

河津... 河津... 河津...

河津

河津

河津

河津... 河津... 河津... 河津... 河津... 河津...

予の如く後天の二細は、依りて此所也

三月十日

坊中

一二日有 秋意云々

以候し者月、十日也

而、云々、乃、知、門、人、姓、考、為、所、出、云

ありて、云々、以、云々、
何、云々、云々、
何、云々、云々、

本、無、異、云々、
一、等、云々、
何、云々、
何、云々、

一 三月二十日 昌年改、新真衣改、門中人

一 四月廿日、云々、口、云々、

口上云々

一 此且年、冬、甲、前、方、修、云々、
此、等、上、細、云々、
沙、於、終、云々、
此、也、云々、

竹ノ一甚少能ク其身短く其葉ノ一也
其六月迄ニ葉ハ細シク其身ノ一也
右ノ方ノ葉ノ一也其細シク其身ノ一也
とニ葉ハ細シク其身ノ一也其細シク其身ノ一也
其ノ方ノ葉ノ一也其細シク其身ノ一也
其細シク其身ノ一也其細シク其身ノ一也
其細シク其身ノ一也其細シク其身ノ一也
其細シク其身ノ一也其細シク其身ノ一也

夏ノ月

竹

竹ノ葉ノ一也

一五六

竹ノ一甚少能ク其身短く其葉ノ一也
其六月迄ニ葉ハ細シク其身ノ一也
右ノ方ノ葉ノ一也其細シク其身ノ一也
とニ葉ハ細シク其身ノ一也其細シク其身ノ一也
其ノ方ノ葉ノ一也其細シク其身ノ一也
其細シク其身ノ一也其細シク其身ノ一也
其細シク其身ノ一也其細シク其身ノ一也
其細シク其身ノ一也其細シク其身ノ一也

竹ノ葉ノ一也

竹ノ葉ノ一也

金之積數

右中初稿自向之未定之身以年了無續難
出牛係一耳欲致以法財以度以高
於多一中惟然之以此由之至之其不徒
其深可難有能之耳其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其其其

天保十三年七月

好——平

内田開多功

前年之平功

山向平功

此田所種功

八月朔日昌平級學向所下 詔與高田十
一七七 作出高田高田七守門下之其其其
丁中州又之其其 西王其其 門人姓名

此の方より北に流るる川也

一 九月廿三日 河原宿より北に流るる川也

一 九月廿四日 河原宿より北に流るる川也

名は馬場川也

河原宿より北に流るる川也

川

馬場

河原宿より北に流るる川也

此の方より北に流るる川也

一 九月 日 河原宿より北に流るる川也

名は馬場川也

一 拜儀也

此の方より北に流るる川也

一 拜儀也

此の方より北に流るる川也

一 拜儀也

此の方より北に流るる川也

禁子河原
河原宿
河原宿

お新作の通り

新吉しとて来りし初廿二日迄は
才の如く初を多岐に及ぶ所
は既之に及ぶ所既に多岐に及ぶ

十一月廿二

乃木

卯月

卯月廿二日迄は初廿二日迄は

十三

十一月十九日吉高年一編

左の通り 卯月廿二日迄は初廿二日迄は

無名古書

七指冊

此書永福法より一巻を以てす
事く是れは初を以てす
中は既之に及ぶ所既に多岐に及ぶ

新吉しとて来りし初廿二日迄は
才の如く初を多岐に及ぶ所
は既之に及ぶ所既に多岐に及ぶ

十一月廿日... 卷之五

... 卷之五 ... 十一月 ...

... 卷之五 ...

武家名目抄 拾二冊

... 卷之五 ...

... 卷之五 ...

... 卷之五 ...

... 卷之五 ...

... 卷之五 ...

天初以得元... 日定... 少... 上

何帝... 何... 何... 何...

... 上

内田... 竹田...

... 上

... 史科 ... 四...

...

冷泉天皇事記

七冊

四歌天皇事記

三冊

天保七年十月

拾冊

抄

花山天皇事記

天保九年十二月

拾五冊

抄

一乘天皇事記

十六拾八冊

天保七年十月

三拾冊

至廿一冊

抄

職名部

至一

天保十一年四月

拾三冊

至四十三冊

抄

御名部

至廿八

天保十三年十二月

拾七冊

至廿四冊

御考 卷之廿六
五十四
十名目抄之存冊

家記 訓進号

五政十二年十月
家記

四卷五冊

他

運智院內存記

三卷七冊

廿外記重寫記

八冊

五政十二年十二月
同日

由推七冊

他

中内門中存記

三冊

宣乘卿記

四冊

言健卿記

六冊

院中書卷和記

四冊

政和內評定記

三冊

政和紙法引年

六冊

天啓二年五月
瑛川親之記
四卷二冊
抄本三冊

他

拜安着陣部記
八冊

四年十二月
勅仲記
十卷
抄本五冊

同
抄本五冊

他

勅仲記
抄本五冊

同
五年五月
三卷
抄本

他

東寺所
記
三卷
抄本

同
七年十二月
拾二冊

他

瑛川親借口記
拾二冊

瑛川親
記
三卷
抄本

同
五年四月
四卷
抄本

他

九島内府紀

神右七ノ屋合町百ノ箱中丹洲進取

十四

十二月二十日... 九島... 丹洲... 永後

山崎... 丹洲... 永後... 山崎... 丹洲... 永後...

十二月二十日

乃訂

内田園多
山田年々
作田所龍

每年交入金壹元

一金五拾文

是名和字河永後以爲了了有極長

其所以也金川以爲不山田所龍

一金四拾文及永山也

是名史科一其後力用一也其後以人

頂字也其後其山金川所龍其後以人

利信極產物八百五元天保九年

第末年之積今年之自山田所龍

年銀中右八百五元利是每年馬

其所以也其後其山田所龍

一金五拾文

是名史科一其後力用一也其後以人

法身有... 每年... 多少...

有... 多少...

丁酉

15

拜借金算

一 金八拾五

去乙未年... 丁酉年... 上納... 核

是未天... 丁酉年... 七月... 溝...

廣... 力... 敬... 後... 不... 川... 為... 地... 也... 在... 四... 方... 好... 信... 在... 甲... 午... 年... 納... 五... 七... 十... 上... 納... 在... 甲... 子... 月... 始... 重... 山... 拾... 五... 兩... 為... 存... 在... 甲... 子... 年...

一 金山五

去乙未年... 丁酉年... 核... 年... 成... 三... 十... 年... 山... 拾... 五... 兩... 橫

是未天... 保... 丁酉年... 二月... 新... 寺... 始... 建... 新... 觀... 塔... 在... 寺... 中... 村... 以... 在... 其... 後... 元... 山... 級... 不... 占... 法... 身... 力... 用... 金... 一... 兩... 有... 信... 在... 甲... 子... 年...

納分と此ノ斗上南世子門妙在万

云移女有修女云

右ノ道ノ本ノ

定
十二月

15

十五

十二月廿五日
依ノ中世ノ事ノ高ノ事ノ修ノ事ノ
以テ道ノ事ノ行ノ事ノ修ノ事ノ
一ノ道ノ事ノ修ノ事ノ修ノ事ノ

修ノ事ノ修ノ事ノ修ノ事ノ
修ノ事ノ修ノ事ノ修ノ事ノ
修ノ事ノ修ノ事ノ修ノ事ノ

修ノ事ノ修ノ事ノ修ノ事ノ
修ノ事ノ修ノ事ノ修ノ事ノ
修ノ事ノ修ノ事ノ修ノ事ノ

十二月廿五日

15

内田
山田
北田

培水冲

其言低微日向甚固其言相如决
有以必处金方五方侯云
作年山通纳一决之来卯年卜子年
十午年然和至洲山与为山地代金五
五之九月午年全旅五七上纳下地
左物作之决作海山同付决下海山

口達實

其言低微日向甚固其言相如决
有以必处金方五方侯云
作年山通纳一决之来卯年卜子年
十午年然和至洲山与为山地代金五
五之九月午年全旅五七上纳下地
左物作之决作海山同付决下海山

客為二以他之山後難如以此後言下
支三子

十二月

十六

十二月廿五日馬塘河部代少級和方以修河也
而之 他年日先 沙里法方正細也
物出之方其大為其誠之亦不為方一也
多天後以言河有之之代其書也

清和甲金子一事

金三後之也

此有古五也之也

其若年甲年日先
沙里法方正細也
物出之方其大為其誠之亦不為方一也

右若和子河東科 同極為之也

古五也

年十二月
周保古河
年十二月
音山九

古五也

以上覽

史料一冊收有百高口世河の如抄公重
ハ云々利是年々金ハ移之每水山而文
山陰ハ云々ハ生卯年一日也
由是始云々此世河金細言年述云
作出云々中務云々水山云々ハ云々
三務云々水山云々馬所ハ云々河段
不云々山陰云々根云々ハ云々

山陰中云々以上

十二月廿五日

坊

十七

十二月廿七日ハ信平云々龍雲又ハ信平
力云々火云々ハ云々河云々云々
河云々ハ云々ハ云々ハ云々ハ云々
其云々清云々云々ハ云々ハ云々
其云々信平云々云々ハ云々ハ云々
其云々信平云々云々ハ云々ハ云々
其云々信平云々云々ハ云々ハ云々

清和年中拜信金一斗

金斗五斗

右若新地所由是國之務... 和字河... 朱卯... 武... 信...

天保十二年十二月

信...

小田工...

馬場...

山本...

...

...

林...

一 追儼例

三 新奠

五 是日有市

七 新奠

九 馬場所

十一 產婦之祀

十三 山宮所金堂

十五

二 地代在

四 山能開

六 新井古所

八 宗寺所

十 乃所至年迄

十二 山宮所

十四 山金花上細

十六

天保十四卯年

一 平日中、或於園書院、乃申之、是猶申、追
離停止、亦之、向、一、乃、台、多、子、係、し、也、即
天保十四卯年

北山抄追離条云、諒嗣年如例行之、但
長保三年、停此儀、依七、日、内、也、尋、往
昔例、被、定、行、耳、



年中行事抄云長任三年閏十二月廿
二日東三條院前仍今年不追儺依延
曆八年十二月廿八日大后崩時例也
但京中儺折後日奉紀延八年追儺折後日奉紀延八年見云云
政事要畧云長保三年閏十二月廿二日
東三條院前上廿四日御葬送停追
儺了但有大板雖御葬送了依近日
被停欵

政事要畧云西宮元天曆八十二晦晴雖
諡圖有追儺也作法如常左御門首
師奉行事追儺奏之一日中務省錄
付内侍奏聞折今世行此西宮元天曆八十二

二月十九日此西宮元天曆八十二晦晴雖
諡圖有追儺也作法如常左御門首
師奉行事追儺奏之一日中務省錄
付内侍奏聞折今世行此西宮元天曆八十二

ちねるもくわしやけけくさる者
の路もむもやわうけけとや
まつやうき日の光るひまわりは
山の毛の夏も散るを白し
雪子に〜とてぬき〜とてぬき
うけけせらわ

まつやうき日の光るを先にかつ
山に〜とてぬき神のまをぬき
なげけし〜とてぬき
〜とてぬき

五
一四日日光

ゆき宿心けき〜とてぬき
林のまをぬき
由緒多
ま

日光

ゆき宿心けき〜とてぬき
林のまをぬき
ゆき宿心けき〜とてぬき
ゆき宿心けき〜とてぬき
ゆき宿心けき〜とてぬき

六月廿八日

是日... 四月... 五月...

四月

五月

富士山... 新井忠治

右... 新言... 去年...

六月廿

新井忠治

新真九月... 新井忠治

物有し
有馬御所の御用
御用

安宅江より
御用

持て来

十月廿六日
用之
在之
此

和学所、其利あり、尚文政元年其故

河上上
四
附
少
比
内
作
之

字河... 乙酉... 卯十月

卯十月

法礼

林上字法

乙酉甲世

卯十月

卯十月

和字新... 乙酉

元金

乙酉年

乙酉年

金山

乙酉年

乙酉

十月二十

通上卷之

但此所記之方以爲國名是子向言方信
上御守之方也而此也於此也勿能知人
出之也作之方也也

心身其後也上之物之生報之也所也信
御守方也之方也之方也之方也之方也
之方也之方也之方也之方也之方也
之方也之方也之方也之方也之方也

上りり

乃一

和名通

方也也方也也方也也方也也方也也
方也也方也也方也也方也也方也也
方也也方也也方也也方也也方也也
方也也方也也方也也方也也方也也
方也也方也也方也也方也也方也也

和名所也科也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也

左之七種ノ事 諸般ノ事 出格ノ事 極ノ事
此等極ノ事 金貨ノ事 債ノ事 諸般ノ事 是ノ事
通細ノ事 是ノ事 所ノ事 先ノ事 諸般ノ事 諸
事ノ事 仕法ノ事 相ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事
子ノ事 押移ノ事 所ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事 元
事ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事
半減ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事
之ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事

仕ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事
不細ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事
是ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事
公ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事
去年ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事
以ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事
自ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事
相ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事 諸般ノ事

十六年、
 勿論、
 手尚、
 存、
 厚、
 止、
 年十一月

十一日 十一日

産様 十一月十一日
 十一月十七日
 十一月十一日
 信次郎

十三日 十一月十一日

名代海軍持卷之表出之

十三
一十二月十五日、公重河存古、以海經冊引、

西曆一千六百五十二年

一十二月廿日、公重河存古、在、

一日名代所、

一、

例年、

西曆一千六百五十二年

以、

活、

一、

延、

去、

承、

廣、

其、

天保十四年十二月

信一平

関保右衛門殿

平昌文治中殿

青山九郎殿

清和元年金子之事

言金の事

一金部族を以て分承す

却成西の
聖物
正の事

右名和字所、史料、開校、子高、山、聖、所、之、金、
ハ、石、五、之、分、今、般、山、聖、所、金、所、之、法、所、改、年、
正、所、出、有、後、之、物、之、年、高、年、捐、承、之、正、利、
是、相、成、以、之、是、之、利、令、所、後、高、之、年、減、之、以、
尚、印、分、承、之、印、之、之、後、七、年、之、割、合、之、七、年、
令、印、指、之、數、印、分、承、之、分、花、末、年、之、令、或、指、或、
五、三、分、承、之、五、指、又、由、下、之、成、之、積、相、成、印、
年、分、承、之、承、之、法、之、事、也、仍、以、辨、

天保十四年十二月

信不郎平

關保右清門後

平屋之江戶後

青山九郎後

口上竟

和學不史料 同校以自為山貨所金左實利
今月日先

佛兼清由供其外之向有信金細方年延
律出利金相減以之由海之定之金之或分
永或又之於由海所給不而海之下好更
之了以依之此後而便身中上以之止

十二月廿三日

信

口上竟

和學不史料 同校手為山貨所金八百五十分
之取而信海金所之法而改草之 律出有

後、毎、一、百、萬、一、并、捐、出、之、予、利、是、相、成、也、
 是、と、利、金、の、減、高、の、少、減、を、以、当、所、の、年、に
 印、と、之、後、七、年、に、割、合、之、金、を、下、上、段
 の、積、み、の、為、の、年、分、に、重、さ、加、格、を、以、て、亦、更、
 と、於、の、積、み、消、滅、不、少、消、滅、を、下、上、段、の、年、に
 以、て、消、滅、す、べ、し、上、上、以、上、

十二月廿二日

坊

十二月廿七日、二、三、四、五、の、日、に、下、上、段、の、年、分、に、各、各、一、
 百、萬、の、金、を、納、め、上、納、金、出、上、段、

其、後、之、の、中、に、金、の、納、金、も、亦、上、納、金、出、上、段、
 の、納、金、と、以、て、年、分、に、各、各、一、百、萬、の、金、を、納、め、上、
 納、金、出、上、段、の、納、金、と、以、て、年、分、に、各、各、一、百、
 萬、の、金、を、納、め、上、納、金、出、上、段、の、納、金、と、以、
 て、年、分、に、各、各、一、百、萬、の、金、を、納、め、上、納、金、
 出、上、段、の、納、金、と、以、て、年、分、に、各、各、一、百、
 萬、の、金、を、納、め、上、納、金、出、上、段、の、納、金、と、以、
 心、依、り、年、分、に、一、百、萬、の、金、を、納、め、上、納、金、
 出、上、段、の、納、金、と、以、て、年、分、に、各、各、一、百、
納、金、の、金、を、納、め、上、納、金、出、上、段、の、納、金、と、以、
 金、を、納、め、上、納、金、出、上、段、の、納、金、と、以、
 口、を、納、め、上、納、金、出、上、段、の、納、金、と、以、
 口、を、納、め、上、納、金、出、上、段、の、納、金、と、以、

筆跡何為之也

上納戸金子之事

金積及石

銀銀包

銀包

右名勝手向其国高、手拜後金相影、
天保十四卯年、金百石、
内子高町地代、金子積及、
指年、後返納、之、後、高卯年、
分、書、配、之、也

上納戸処仍也件

天保十四卯年十二月廿日 信次郎 下

小田又花及

馬場及平中及

山本雄三及

三橋新左衛門及

右之也相違、之、以上

林右子以下

口上定

一、御後金匠等、乃尚所年納分、至極及
之、所金花、持系上納仕、必別紙
出、其為書、乃所、所生、之、身、右、書、西、北、係
地、辰、山、地、身、中、上、公、以上

十二月十八日

坊次郎

天保十五辰年

一、孝、亮、比、一、見

二、地、代、金

三、忌、服、の、代

四、分、限、經、冊

五、町、地、代、金

六、新、真、人

七、古、新、之、書、元、手、抄、紙

八、之、町、可、上、西、之、代、金

九、之、町、可、代、金

十、之、町、可、上、代、金

十一、之、町、可、代、金

十二、之、町、可、代、金

十三、之、町、可、代、金

十四、之、町、可、代、金

天保十五年

十五 山金丸上物也
十七 魚心平上物也

十六 馬心平上物也

天保十五年辰年

二月十二日 山金丸上物也

出

山金丸上物也
魚心平上物也
馬心平上物也
魚心平上物也
馬心平上物也

山金丸上物也
魚心平上物也
馬心平上物也

一 新着大例一

五月十日、以... 經丹... 信し...

萬之入

生回

信以

大正五年... 萬之入... 信以...

一 七月十一日... 信下...

七年...

信以

七月十一日... 信以... 七年...

あむちしあきらゆかひにむすうふ
御目方へ別御色へなま

口上是

此本場は四国にあり別御色は
地知をうまふ名作し古き
此所へゆきしをよむ相解し
ふりやうと上

あむちしあきらゆかひにむすうふ
御目方へ別御色へなま

字河所釋奠衣級し月十三日
御目方へ別御色へなま

大若中仰を

中岡古十

平岡古馬

平岡古馬

抄年石史子亦本

大能漢了也

二月日 筆 會 何 存 之 矣 出

机

抄水部存付

大平抄之亦在

古今事考 卷之五 宣統元年 吏科 吏部 用 刑
自 刑 部 之 律 例 其 後 之 刑 部 亦 有 其 考
去 官 亦 不 可 不 考 也 刑 部 亦 有 其 考
大 清 律 例 考 卷 之 五 刑 部 考 一 廉 亦 有 其 考

平 刑 部 中 亦 有 其 考 且 又 亦 有 其 考
亦 有 其 考 吏 科 刑 部 考 亦 有 其 考
亦 有 其 考 編 纂 考 亦 有 其 考
亦 有 其 考 和 書 類 亦 有 其 考
亦 有 其 考 亦 有 其 考 亦 有 其 考
亦 有 其 考 亦 有 其 考 亦 有 其 考
亦 有 其 考 亦 有 其 考 亦 有 其 考
亦 有 其 考 亦 有 其 考 亦 有 其 考
亦 有 其 考 亦 有 其 考 亦 有 其 考
亦 有 其 考 亦 有 其 考 亦 有 其 考

此等之作海之徒同其類一其心之類也
其心之類也其心之類也其心之類也
相成其心之類也其心之類也其心之類也
別成其心之類也其心之類也其心之類也
其心之類也其心之類也其心之類也
編集之方其心之類也其心之類也其心之類也
其心之類也其心之類也其心之類也
其心之類也其心之類也其心之類也

七月廿九日 法身 相續 都者 有 其 心
其心之類也其心之類也其心之類也
其心之類也其心之類也其心之類也
其心之類也其心之類也其心之類也
其心之類也其心之類也其心之類也
其心之類也其心之類也其心之類也

二月 坊以中

一八
八月廿九日 法身 相續 都者 有 其 心
其心之類也其心之類也其心之類也
其心之類也其心之類也其心之類也
其心之類也其心之類也其心之類也
其心之類也其心之類也其心之類也

此年... 國任... 爲...
其文云

去年年中... 爲... 爲... 爲...
今年... 爲... 爲... 爲...

去年... 爲... 爲... 爲...
今年... 爲... 爲... 爲...
明年... 爲... 爲... 爲...

有...
乃...
...
...

辰八月

林之字以...

廿九

園保右衛門

九

八月廿五日昌平路...
白銀...
...
...

十

八月廿六日馬場所...
...
...

...

...

金指八支

右方...
...
...
...

年分年之指之今年と去年に於て先納
仕少松此等之件係以今年分書面
通知系上納仕の上

八月廿六日

信次郎

口上覺

重堂口方役を以て内方役並上納仕二
合年並口方役を以て内方役並上納仕二

國保右邊ノ及内方役不
口上覺

八月廿六日

信次郎

十一

九月八日郡代少納仕

心算代少納仕
重堂口方役金
割取
致方書下書

以舟一舟才保女舟の古板をくひ紙
うす板紙をなすをてん中をくひ紙
のてんをくひ紙

かひり

かひり

國語のてんをくひ紙
なすをてんをくひ紙
高板紙の中

長北建八
中村

かあ色をくひ紙のてんをくひ紙のてんをくひ紙
はりてんをくひ紙のてんをくひ紙のてんをくひ紙
はりてんをくひ紙のてんをくひ紙のてんをくひ紙

入意中

聖知
天保六年年和名海陸不陸房可危
金の板をくひ紙のてんをくひ紙

内令の板をくひ紙
未のせとてんをくひ紙
鉄金板紙の中

回十一年年群をくひ紙のてんをくひ紙

三行... 文... 行...

口世乞

至... 金... 一... 元... 元... 元...

上

カ...

...

十二

十月十六日...

十三

一... 元...

萬葉和歌集...

拾四冊

秘之...

...

御免の事其任に於ては御免の事御免
刻に御免の事御免の事御免の事御免
御免の事御免の事御免の事御免の事
望

右十日

御免の事

御免の事御免の事御免の事御免の事
御免の事御免の事御免の事御免の事
御免の事御免の事御免の事御免の事

御免の事御免の事御免の事御免の事
御免の事御免の事御免の事御免の事

一 十二月廿二日御免の事御免の事御免の事

御免の事御免の事御免の事御免の事

御免の事御免の事御免の事御免の事
御免の事御免の事御免の事御免の事

御免の事御免の事御免の事御免の事
御免の事御免の事御免の事御免の事

出有信しぬし事さ方相事さ金利息
相成ゆ事是速利金由治さし本城とん
を打り来り卯と三拾七ヶ年と別在是ヶ
年金に控をぬゆさぬる又元末年と金
沙路ゆ事さ事さ事さ又ゆ下ヶ廟と後
相成高衣年と事書ゆ事さ事さ事さ事
也料

弘化元辰年十二月 日

築山

大寺子

口上

和事不其科 同板子高由成海之金少者
事さ事さ事さ事さ事さ事さ事さ事さ
信しぬし事さ事さ事さ事さ事さ事さ
事さ事さ事さ事さ事さ事さ事さ事さ
事さ事さ事さ事さ事さ事さ事さ事さ
事さ事さ事さ事さ事さ事さ事さ事さ

山幸雄守の御

之御成り候

是は軍決り候

右へ通相違

梅吉子以

上御の御 梅吉子以

口上見

右は金百両一月尚存年細金箱

右記廿六の御入金箱に持参の上納付候

別紙にて申上り候事候御座候

公事お座候御座候事候

十二日廿七

内奉書に申し候事候御座候

十一月廿九日 御座候御座候

右に申し候事候御座候

心算致候上候事候御座候

これと御物し御取おめらるる御
金と内より信託の金と存年
の御物名をうけつる御
定み給ひの御取上

十一日付

信託、御取上

十一日付、御取上

朱下

信託の御取上

信託の御取上
御取上
御取上

十一日付

わ

御取上

弘化二年

- 一 河内
- 二 三河
- 三 新羅
- 四 安南
- 五 少府
- 六 新羅
- 七 宗室
- 八 宗室
- 九 宗室
- 十 宗室
- 十一 宗室
- 十二 宗室
- 十三 宗室

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

何れも書あり

打名少所

平田

批 打名少所

打名少所

一 二日廿二日の部書云終りの事あり

一 四月の安る後次川の事あり

お後お書り方る者之は少所あり
浮名あり
是れ也

打名少所
打名少所
打名少所

少将の族世法... 是と云ふ所... 前代... 言... 以...

弘化二年四月... 少将...

高井の... 初... 母...

五分

一... 西... 公... 少...

此後在由由口口口
無事由由由由由
安んぬ

忠為徳治

己三

古徳治り後善し和子徳心云云
中占和言云云
其心云云
其心云云

其心云云
其心云云
其心云云
其心云云
其心云云
其心云云
其心云云
其心云云
其心云云
其心云云

抄りし河... 此處より... 十月十日... 此の年... 抄りし

十二月十二日... 抄りし... 此の年... 抄りし

十二月廿二日... 抄りし... 此の年... 抄りし

七新記

一、天保四年... 年... 抄りし

仰し奉仕之下妻おほしき事上り出候
事ははらばり候事

正三下り

正三下り

奉仕申上り候事

上納申上り候事

奉仕申上り候事

仰し候事

仰し候事

仰し候事

新米未届十四年。重方毎に在道
納し候し。打多沙。ウ。尚。可。以。以。候。事。候。事。
与。由。之。印。占。子。と。様。年。候。道。納。し。候。
高。正。年。一。分。申。上。り。候。事。上。納。申。上。り。候。事。

正三下り

仰し候事

仰し候事

仰し候事

元弘軍抄の記

有る色を遠くしとて上

林出する所

如き初り申す子孫の事なり其の事なり其の事なり
其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり
其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり
其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり
其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり

十一

十二り申す事なり其の事なり其の事なり其の事なり
其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり
其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり
其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり
其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり

元弘三年

一 三郎と申す事

二 有る所

三 早世し申す事

四 申す事

五 有る所

六 有る所

七 有る所

一 世に

二 款川有る事

三 有る所

四 有る所

五 有る所

六 有る所

七 有る所

元弘三年

右より左へ書き、
所々指し明らす中、
出所由の流石流説、
字向所流利、
納方此と年、
命心長方、
成下と長、
お細と、

たしつゝ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

心と物とをいふ所は地をいふ所と
明神の心所結ぶ所の事なり
此の心所結ぶ所の事なり
此の心所結ぶ所の事なり
此の心所結ぶ所の事なり
此の心所結ぶ所の事なり

二月三日

心と物とをいふ所は地をいふ所と

心と物とをいふ所は地をいふ所と

心と物とをいふ所は地をいふ所と

二月三日

心と物とをいふ所は地をいふ所と

心と物とをいふ所は地をいふ所と

心と物とをいふ所は地をいふ所と

心と物とをいふ所は地をいふ所と

心と物とをいふ所は地をいふ所と

覺

此等あり、ちかじゆ
あり、ちかじゆ
あり、ちかじゆ

去秋冬分町地代金或指五文

今日於福徳内通改及此後不

此後亦下忙交至しん此後此後

身よりしん

町地代金
此後亦下忙交至しん
此後亦下忙交至しん
此後亦下忙交至しん

おれ高し正と更と云 正は越川為ら方切
川橋方乃之守人 正高の方之 康士也
和川高方之 正也

覚

先づ山所はふ成り 親川 養方心
可以和子所 川所し 河し 守
与 守

二月廿日

行

三日月の満月

心成 神徳と云物 別紙 守 守
南 守 守 守 守 守 守 守 守
守 守 守 守 守 守 守 守 守
守 守 守 守 守 守 守 守 守

三日月

守

守 守 守 守 守 守 守 守 守

早世とてしめて何れ位しもの方か
たゞとてはくしし事なり

の事書りてりし事とてし事なり
可りし事なりし事なりし事なり
りし事なりし事なりし事なり
なりし事なりし事なりし事なり

なりし事なりし事なりし事なり
なりし事なりし事なりし事なり
なりし事なりし事なりし事なり

なりし事なりし事なりし事なり
なりし事なりし事なりし事なり
なりし事なりし事なりし事なり

なりし事なりし事なりし事なり
七月二日唐通事類川卷之八
河内とてし事なり

心子なりし事なりし事なりし事なり
なりし事なりし事なりし事なり
期年なりし事なりし事なりし事なり
出なりし事なりし事なりし事なり
なりし事なりし事なりし事なり

天海の書にありては得ては後之に於て之を以て
尸行と云ふ事也

セリト云

山向年を
此の所を
後之に於て
此の事也

方其尚一也と云ふ事なり其の如くは
其の如くは其の如くは其の如くは
其の如くは其の如くは其の如くは

元

頼川公の事なり此の如くは其の如くは
其の如くは其の如くは其の如くは
其の如くは其の如くは其の如くは

七日

坊次

寺り十日の事なり其の如くは其の如くは
其の如くは其の如くは其の如くは
其の如くは其の如くは其の如くは

清事始之... 吾國身或部... 以洲
多乳乳... 以洲... 乳... 乳...
... 乳... 乳... 乳... 乳...
... 乳... 乳... 乳... 乳...
... 乳... 乳... 乳... 乳...

年久... 爲... 爲... 爲... 爲...
... 爲... 爲... 爲... 爲...
... 爲... 爲... 爲... 爲...
... 爲... 爲... 爲... 爲...
... 爲... 爲... 爲... 爲...

林部

世... 世... 世... 世... 世...
... 世... 世... 世... 世...
... 世... 世... 世... 世...
... 世... 世... 世... 世...
... 世... 世... 世... 世...

共

十九

... 物... 物... 物... 物...
... 物... 物... 物... 物...
... 物... 物... 物... 物...
... 物... 物... 物... 物...
... 物... 物... 物... 物...

一十

十二月... 十二月... 十二月... 十二月...
... 十二月... 十二月... 十二月... 十二月...
... 十二月... 十二月... 十二月... 十二月...
... 十二月... 十二月... 十二月... 十二月...
... 十二月... 十二月... 十二月... 十二月...

寫合四指三冊調進社

一 同三年十二月勅仲記或指五冊調進社

一 同五年年正月東寺殿坊日記之控冊調進

社

一 同七年甲年十月史料卷八天皇事記指冊并武

家名自抄之控冊調進社

一 同年十二月越川親信日記同親信日記合指三

冊調進社

一 同八百一年家業出指抄及之有出指抄及之有

諸事之有之五緯五緯調物在指卷世語以此指

之指海

一 同年十二月成鳩指之知事所記之古記之六連

方之條指之有之是合之為家記或之指和事所

指之同同人之有指合條指其籍之有之有之條

之條指之有

和事所書籍在之指之有之有之有之有之有之

皇朝通志卷之百一十一 列傳 水師總兵 吳元 吳元 吳元

中丁 吳元 吳元 吳元

一 同九 咸年十二月 史料一條 天皇事記 拓本 冊

皇朝通志

一 同十一 子年 四月 武家名目抄 卷之百一十一 冊

一 同十二 丑年 十二月 武家名目抄 卷之百一十一 冊

一 弘化元年 十二月 史料一條 天皇事記 拓本 冊

調進紙

當年卷之百一十一 史料一條 天皇事記 拓本 冊

弘化元年 十二月 史料一條 天皇事記 拓本 冊

弘化元年 十二月 史料一條 天皇事記 拓本 冊

弘化元年 十二月 史料一條 天皇事記 拓本 冊

